

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス

コード番号 7571 URL <http://www.yamano-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高執行責任者 (氏名) 山野 義友

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理副本部長兼財務経理部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	17,074	△6.2	52	△85.5	20	△93.9	186	△7.2
26年3月期第3四半期	18,196	5.2	361	△1.6	339	1.9	200	△37.4

(注)包括利益 27年3月期第3四半期 △15百万円 (—%) 26年3月期第3四半期 252百万円 (△32.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	5.40	—
26年3月期第3四半期	5.57	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	12,307	2,642	10.1
26年3月期	11,073	2,770	9.9

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 1,241百万円 26年3月期 1,101百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	1.50	1.50
27年3月期	—	0.00	—		
27年3月期(予想)				2.00	2.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,400	△5.6	350	△38.3	310	△43.8	240	△25.0	6.96

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
 新規 一社 (社名) 、 除外 2社 (社名) HMリテーリングス株式会社、丸福商事株式会社

(注)詳細は、4ページの2. サマリー情報(注記事項)に関する事項「(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	34,497,058 株	26年3月期	34,497,058 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	15,966 株	26年3月期	15,966 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	34,481,092 株	26年3月期3Q	34,481,092 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表及び財務諸表の監査手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による追加金融緩和策によって企業収益や雇用情勢に改善等が見られ、景気は緩やかな回復基調となったものの、個人消費については、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化や円安の進行による原材料価格の高騰などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、「第二創業 ～2nd Stage～」と位置づけた当第3四半期連結累計期間において、今後の更なる成長、業績の継続的な拡大を目指す準備のため、人財育成に向けた各種施策を実施し、また、管理効率化のためのIT投資を実施しております。

事業においては、従来より掲げている「ソフトと価値の提供」をテーマとした商品以外のサービス・満足の提供を目指した施策を継続することに加え、小売事業及び卸売事業各々の経営資源の効果的な活用とより一層の効率化を目指し、和装品等の小売事業を行うHMリテーリングス株式会社を当社が吸収合併し、また、婦人服等の卸売事業を行う丸福商事株式会社は堀田丸正株式会社が吸収合併するなどの組織再編を実施いたしました。また店舗展開としては各事業における店舗改装や移転・統合などのスクラップアンドビルドを推進しており、収益力の強化に努めてまいりました。

この結果、売上高は170億74百万円（前年同四半期比6.2%減）、営業利益は52百万円（前年同四半期比85.5%減）、経常利益は20百万円（前年同四半期比93.9%減）となり、四半期純利益は、堀田丸正株式会社による丸福商事株式会社の吸収合併に伴う少数株主損失の計上1億59百万円等があり、1億86百万円（前年同四半期比7.2%減）となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

なお、平成26年4月1日付のグループ内の組織再編に伴い、セグメントの管理区分を見直したことにより、記載する事業セグメント区分の変更又は名称の変更を行っております。前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は10ページに記載の（セグメント情報等）をご参照ください。

#### 1) 「美容事業」

美容事業につきましては、「ファミリーサロン」「アンチエイジングサロン」への店舗改修を他社との差別化戦略としております。当第3四半期連結累計期間においては「アンチエイジングサロン」への店舗改修を1店舗実施、1店舗の新規出店を実施いたしました。また前期より引き続き、着付け技術取得者の増員、実施店舗の拡大に努めた結果、浴衣着付けサービス獲得件数は前年同期比174%、成人式着付けサービスの予約獲得件数は前年同期比146%となり、順調に伸長しております。

なお、平成26年12月31日現在の店舗数は、直営104店舗、FCは1店舗を閉鎖し5店舗となっております。

美容事業においては、前連結会計年度に12店舗の閉鎖・統合を実施した影響があり、売上高は、18億85百万円（前年同四半期比9.4%減）となり、セグメント利益86百万円（前年同四半期比24.9%減）となりました。

#### 2) 「スポーツ事業」

スポーツ事業につきましては専門店ならではの提案力強化、体験サービスイベントの開催、メンテナンスサービスの商品化等を推進しております。メンテナンスサービス強化のため、当第3四半期連結累計期間においては、最新型チェーンアップマシンの機材投入をウィンター商品販売店舗で実施しております。なお、平成26年12月31日現在の店舗数は17店舗となっております。

スポーツ事業においては、予約商品、客注商品の年内引き渡し強化を図ったほか、ウィンター商戦においては、大型催事の成功など、好調に推移いたしました。しかしながら消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動減や夏季の天候不順によりマリンスポーツの夏物商戦が不振であったことや、広島市での大雨災害により同地区にある旗艦店の営業に影響があった結果、売上高は30億8百万円（前年同四半期比4.2%減）となり、セグメント損失15百万円（前年同四半期はセグメント利益38百万円）となりました。

#### 3) 「DSM事業」

DSM事業につきましては、買い物の場が減少してしまった地方の顧客に対する商品提案の場として各ショッ

ブにおいてミニ展示会を積極的に開催しております。夏季に実施しました大型催事「大江戸 夏祭り」は計画を大きく上回る成功を収めました。消費増税の影響や事業所の閉鎖及び統合の影響があり、売上は低調に推移してまいりました。なお、平成26年12月31日現在の店舗数は80店舗となっております。

この結果、DSM事業の売上高は21億38百万円（前年同四半期比9.7%減）となり、セグメント利益63百万円（前年同四半期比28.1%減）となりました。

#### 4) 「和装宝飾事業」

第1四半期連結累計期間においてグループ内組織再編を実施し、従来の「和装・アパレル事業」と「宝飾事業」を統合し、「和装宝飾事業」とする体制をスタートさせました。営業管理体制を統合することにより、店舗運営ノウハウを共有し相乗効果を目指してまいります。

当第3四半期連結累計期間においては、和装小売店舗は4店舗を新規出店、3店舗を閉鎖、4店舗のリニューアルを実施、宝飾小売店舗は4店舗の閉鎖を実施し、平成26年12月31日現在の店舗数は、和装小売店舗が64店舗、宝飾小売店舗が23店舗、洋装小売店舗が9店舗となっております。

和装宝飾事業においては、宝飾品販売での店舗閉鎖や消費増税影響による売上高減少があったものの、和装品販売では、前期に導入した「ステップアップガイドライン」による人材育成と販売力強化に努めたこともあり、ほぼ前年同期並みの売上高を確保し、堅調に推移しております。その結果、売上高は49億67百万円（前年同四半期比3.8%減）となりました。セグメント利益は、当社グループの組織再編に伴う本社費按分の見直しを行ったことにより、一般管理費の負担増加があり、43百万円（前年同四半期比71.6%減）となりました。

#### 5) 「卸売事業」

卸売事業につきましては、百貨店における売場コーナー化の推進に向けた施策を実施し、「卸から顧客創造」戦略を推進しております。なお、平成26年12月31日現在のタケオニシダ直営店の店舗数は18店舗となっております。

当第3四半期連結累計期間においては、消費増税の影響の長期化により、主力である地方百貨店での売上が伸び悩み、また大型催事の中止などもあり低調に推移いたしました。その結果、卸売事業の売上高は46億74百万円（前年同四半期比7.4%減）となり、セグメント損失1億円（前年同四半期はセグメント利益13百万円）となりました。

#### 6) 「その他の事業」

その他の事業の事業内容は、主に堀田（上海）貿易有限公司の意匠擦糸の販売、株式会社ヤマノセイビングの前払式特定取引業による手数料収益であります。

その他の事業の売上高は、3億99百万円（前年同四半期比1.2%増）となり、セグメント損失9百万円（前年同四半期はセグメント損失14百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ12億34百万円増加し123億7百万円となりました。これは、主に流動資産においては現金及び預金が8億96百万円増加、受取手形及び売掛金が1億23百万円減少、商品及び製品が4億61百万円増加、敷金及び保証金が82百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比べ13億62百万円増加し96億65百万円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が6億33百万円増加、電子記録債務が6億89百万円増加、短期借入金が2億51百万円増加、長期借入金が1億42百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ1億28百万円減少し26億42百万円となりました。これは、主に四半期純利益1億86百万円、剰余金の配当51百万円、少数株主持分が2億86百万円減少したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の通期業績予想につきましては、平成26年11月13日付「平成27年3月期第2四半期決算短信」にて公表した内容から変更はありません。

今後、業績予想に変更の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間において、従来、連結子会社であったHMリテーリングス株式会社は、平成26年7月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により解散いたしました。

また、当第3四半期連結会計期間において、従来、連結子会社であった丸福商事株式会社は、平成26年10月1日付で連結子会社の堀田丸正株式会社を存続会社とする吸収合併により解散したため、連結の範囲より除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,493,959	2,390,286
受取手形及び売掛金	2,774,998	2,651,321
電子記録債権	48,216	88,531
商品及び製品	2,918,370	3,380,301
仕掛品	29,420	33,116
原材料及び貯蔵品	47,128	85,562
繰延税金資産	36,710	36,710
その他	273,556	303,288
貸倒引当金	△64,816	△24,035
流動資産合計	7,557,544	8,945,082
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,669,326	1,676,000
減価償却累計額	△1,164,764	△1,166,958
建物及び構築物(純額)	504,562	509,042
機械装置及び運搬具	23,900	13,836
減価償却累計額	△23,445	△13,723
機械装置及び運搬具(純額)	455	113
工具、器具及び備品	437,049	447,210
減価償却累計額	△392,566	△401,762
工具、器具及び備品(純額)	44,482	45,447
土地	737,821	727,521
リース資産	39,292	57,269
減価償却累計額	△15,874	△23,939
リース資産(純額)	23,417	33,329
建設仮勘定	9,470	-
有形固定資産合計	1,320,210	1,315,455
無形固定資産		
のれん	217,220	172,216
その他	150,328	136,354
無形固定資産合計	367,548	308,571
投資その他の資産		
投資有価証券	145,386	156,685
長期貸付金	12,696	11,272
敷金及び保証金	1,329,490	1,246,861
繰延税金資産	92,677	86,980
その他	382,127	372,950
貸倒引当金	△134,145	△136,014
投資その他の資産合計	1,828,232	1,738,734
固定資産合計	3,515,992	3,362,761
資産合計	11,073,537	12,307,843

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,128,347	3,762,136
電子記録債務	56,357	745,603
短期借入金	160,000	411,000
1年内返済予定の長期借入金	256,920	246,520
未払金	480,205	605,392
繰延税金負債	1,337	121
前受金	1,253,441	1,179,222
未払法人税等	66,545	41,512
資産除去債務	-	3,211
賞与引当金	12,920	4,260
返品調整引当金	14,522	12,378
ポイント引当金	56,224	52,236
株主優待引当金	3,575	3,575
その他	480,914	440,257
流動負債合計	5,971,312	7,507,426
固定負債		
長期借入金	1,743,980	1,601,440
長期末払金	241,120	237,010
繰延税金負債	25,042	22,591
資産除去債務	173,584	171,987
負ののれん	338	-
その他	147,862	125,157
固定負債合計	2,331,928	2,158,186
負債合計	8,303,241	9,665,613
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,259	1,259
利益剰余金	984,663	1,119,279
自己株式	△3,019	△3,019
株主資本合計	1,082,903	1,217,519
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,694	14,463
為替換算調整勘定	8,645	9,429
その他の包括利益累計額合計	18,340	23,893
少数株主持分	1,669,051	1,400,816
純資産合計	2,770,295	2,642,230
負債純資産合計	11,073,537	12,307,843



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	18,196,391	17,074,139
売上原価	10,750,401	10,066,000
売上総利益	7,445,990	7,008,139
販売費及び一般管理費	7,084,427	6,955,813
営業利益	361,563	52,325
営業外収益		
受取利息	4,625	4,639
受取地代家賃	13,120	10,122
協賛金収入	7,709	6,945
負ののれん償却額	5,838	338
その他	46,141	13,390
営業外収益合計	77,435	35,436
営業外費用		
支払利息	48,986	33,042
手形売却損	1,183	1,585
支払手数料	26,628	10,320
その他	22,363	22,135
営業外費用合計	99,162	67,084
経常利益	339,836	20,677
特別利益		
固定資産売却益	79	4,954
負ののれん発生益	-	20,158
特別利益合計	79	25,112
特別損失		
固定資産売却損	873	-
固定資産除却損	6,772	2,201
減損損失	40,901	5,119
投資有価証券評価損	537	-
店舗閉鎖損失	6,951	10,432
その他	12,557	6,625
特別損失合計	68,594	24,378
税金等調整前四半期純利益	271,321	21,411
法人税、住民税及び事業税	51,373	46,813
法人税等調整額	-	△1,510
法人税等合計	51,373	45,303
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	219,947	△23,891
少数株主利益又は少数株主損失(△)	19,222	△210,229
四半期純利益	200,725	186,337

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	219,947	△23,891
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,965	6,628
為替換算調整勘定	18,690	1,403
その他の包括利益合計	32,655	8,032
四半期包括利益	252,603	△15,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	222,010	191,887
少数株主に係る四半期包括利益	30,593	△207,747

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

## 1. 配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	A種優先株式	15,041	15,041,000	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
	B種優先株式	31,756	31,756,458			

(注) 1. A種優先株式の発行数は1株であります。また、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額10,041千円は累積され、当期の配当額5,000千円と合わせて優先株主に対して配当いたしました。

2. B種優先株式の発行数は1株であります。また、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額21,199千円は累積され、当期の配当額10,556千円と合わせて優先株主に対して配当いたしました。

## 2. 基準日が第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

平成25年6月27日開催の定時株主総会決議により、平成25年8月1日付で会社法第447条第1項及び第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金を減少させ、その他資本剰余金に振替えております。この結果、資本金が155,565千円、資本準備金が155,565千円減少いたしました。

また、平成25年8月21日開催の取締役会において、A種優先株式の全株式(1株)及び平成25年10月17日開催の取締役会において、B種優先株式の全株式(1株)を取得及び消却することを決議し、以下のとおり実行いたしました。

## (1) A種優先株式

- ① 取得及び消却した株式の数 1株
- ② 株式の取得価額 1株につき102,506,849円
- ③ 取得及び消却した日 平成25年9月30日

## (2) B種優先株式

- ① 取得及び消却した株式の数 1株
- ② 株式の取得価額 1株につき217,320,612円
- ③ 取得及び消却した日 平成25年10月31日

以上により、当第3四半期会計期間末においては、資本金が100,000千円、資本剰余金が1,259千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

## 1. 配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月15日 取締役会	普通株式	51,721	1.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

## 2. 基準日が第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	2,080,223	3,138,830	2,368,632	5,165,656	5,048,531
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	89,399
計	2,080,223	3,138,830	2,368,632	5,165,656	5,137,931
セグメント利益又は損失(△)	115,215	38,408	87,738	154,181	13,927

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	17,801,875	394,516	18,196,391	—	18,196,391
セグメント間の内部売上高 又は振替高	89,399	24,162	113,562	△113,562	—
計	17,891,274	418,679	18,309,954	△113,562	18,196,391
セグメント利益又は損失(△)	409,471	△14,511	394,960	△33,397	361,563

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおりません。

2 セグメント利益の調整額△33,397千円には、セグメント間取引消去2,528千円、のれんの償却額△39,566千円、各報告セグメントに配分していない全社費用730千円及び棚卸資産の調整額2,909千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売	その他	全社・消去	合計
減損損失	38,532	—	—	2,369	—	—	—	40,901

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	1,885,409	3,008,520	2,138,756	4,967,731	4,674,571
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	47,356
計	1,885,409	3,008,520	2,138,756	4,967,731	4,721,927
セグメント利益又は損失(△)	86,525	△15,767	63,060	43,810	△100,537

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	16,674,989	399,149	17,074,139	—	17,074,139
セグメント間の内部売上高 又は振替高	47,356	35,468	82,824	△82,824	—
計	16,722,345	434,618	17,156,963	△82,824	17,074,139
セグメント利益又は損失(△)	77,091	△9,302	67,789	△15,463	52,325

- (注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△15,463千円には、セグメント間取引消去6,716千円、のれんの償却額△37,002千円、各報告セグメントに配分していない全社費用13,106千円及び棚卸資産の調整額1,715千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	5,119	—	—	—	5,119

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結累計期間において、当社の連結子会社である堀田丸正株式会社より、HMリテーニングス株式会社の株式を取得し、当社の100%子会社としたことに伴い、「和装宝飾」セグメントにおいて負ののれん発生益を20,136千円計上しております。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントの区分は、「美容」、「スポーツ」、「D S M」、「和装・アパレル」、「卸売」、「宝飾」としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「美容」、「スポーツ」、「D S M」、「和装宝飾」、「卸売」に変更しております。これは、事業構造変革の一環として既存の組織を見直し、従来以上に相乗効果を発揮すべく組織の一部を再編成したことに伴うものであります。

従来、独立した報告セグメントとしていた「和装・アパレル」と「宝飾」を「和装宝飾」に統合しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。